

新運鎮

廿九日

晴

拂曉第一線ハ敵ノ設置部隊ヲ撃

破シ追撃ニ移ル

飯塚支隊ハ陳鬼橋ノ敵ヲ攻撃ス

右翼隊ハ連絡十分ナラサルモ其南

方陣地ヲ攻撃中ナルモノ如シ

左翼隊ハ七寶鎮ヲ占領シ一却ハ

華莊鎮ヲ占領ス

即チ飯塚支隊ニ潘家宅北側橋

梁ノ占領ノ有無ヲ質ス 悉ルニ夜

ニ入リ對岸ニトリーケカトアリトノ報ヲ

受ク

川上參謀ヨリ電話アリ曰ク

飯塚支隊八十一日朝迄ニ孟屯ニ  
 集結所屬ニ復歸セシムレシ  
 朝ハ正午頃迄ニテ可ナリト附言ス  
 即テ十日拂曉迄ニ交代ヲ終リ午前  
 中ニ孟家屯ニ集結シ所屬ニ復  
 歸スヘク命令ス  
 川上参謀ヨリ作戰主任参謀ニ電誌アリ  
 集結所兵隊ハ徐涇鎮ニ於テ敵  
 ニ阻止セラレアリ第九師團ヨリ約  
 一大隊ノ支援ヲ派遣シ該騎兵ヲ推  
 進セラレ度シト  
 作戰主任参謀ハ當然可ナルヘキモ

應參謀長ノ意見ヲ質シタル後  
 答スヘキヲ約シ參謀長ニ報告ス  
 參謀長ハ「爾後ノ作戰準備ノ爲  
 不同意ナリ若シ強テ軍ヨリ  
 七八致方ナキモ徐湮鎮ノ敵ヲ撃破  
 七八直ニ歸還セシムヘシト電告  
 セシム  
 即チ任命甲第四十號ヲ下達ス

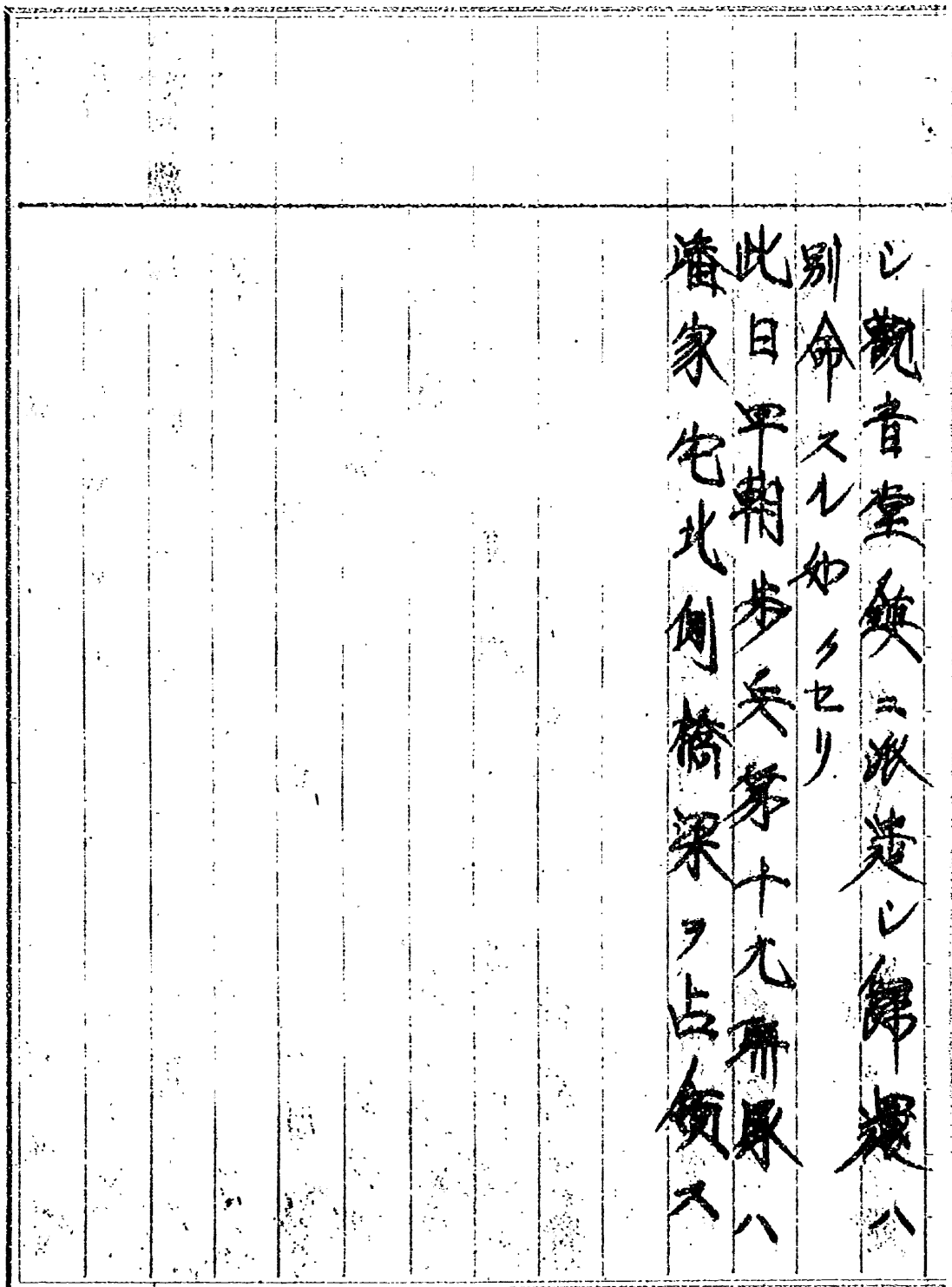
1338

十月十日

晴

中新逐鉄

午前五時頃土田支隊ヨリ作候報告  
 ニ依レハ集兵騎兵隊ハ已ニ徐深  
 鉄ノ敵ヲ撃破シ本朝追撃ヲ  
 續行スト即チ作戦主任參謀ハ  
 川上參謀ニ電話シ土田支隊  
 遺ノ必要ナキニ至リタルヲ以テ派  
 遣ヲ中止スル旨ヲ告ク即チ三三  
 問答ノ末川上參謀之ヲ是認ス  
 即チ直チニ土田支隊ニ任務ノ解  
 消ヲ告ク  
 悉ルニ間モ無ク第一課長ハ參  
 謀長ニ電話シ兵力ノ派遣ヲ  
 要求ス  
 即チ依命甲第五十號ヲ下達



別命スル如クセリ  
此日平朝歩兵第九番隊ハ  
藩家宅北側橋梁ヲ占領ス

陸軍

青十二日  
墨後東  
中野洋鎮  
追撃

本日軍ヨリ追撃ノ電告命令アリ  
即チ依命甲第又十二號ヲ下達ス  
左追撃隊ヲ第六師團ノ後方ヲ  
前進セシメシ理由左ノ如シ

軍命令ノ如ク莫波鎮西方地區  
ニ師團ノ全カヲ前進セシムルハ  
道路トダグリクノ關係上追撃  
著シク遲滞スルノ懼アリシ  
以テ軍ノ諒解ヲ得左追撃隊  
ヲ先ツ第六師團ノ後方ヲ前  
進・蘇州河渡河後師團ノ依  
戦地域内ニ入ラシムル如クセリ  
師團主力ノ追撃ヲ十三日トシ  
第十一師團ノ依戦地境ヲ前進

セレ理由由左ノ如シ  
 先ニ師團ハ三江・青浦ノ線ニ  
 追撃ヲ具申セルモ軍ハ第九師  
 團ハ現在地附近ニ其兵力ヲ  
 集結シ追撃ニ使用スルノ意志  
 ナシ少クモ一週間ハ戦後ノ整理  
 ヲ成サレムトノ事ナリレヲ以テ  
 戦場掃除・隊員ノ整備・諸整  
 理ノ實施中ニレテ十日ハ追撃  
 不可能ノ状態ニ在リ  
 遂路ヲ第十師團依拠地域ノ都  
 ノ第三師團依拠地域ノ前進  
 セレメリハ前記理由ニ依ル外車  
 輛部隊ヲ有セルニ依ル



土庫山音 師團主力ハ午前入時北新涇鎮出

發行進着シク遲滞シ夜南翔西

新涇鎮 却ニ到着者宿營ス

南翔 行進遲滞セシ理由左ノ如シ

道寧 一道路不良持ニ橋梁ハ墮折ニ

破壊セラレアリ

二野戦重砲兵聯隊 師團命令ノ

嚴守不十分ナリシ爲道路ヲ閉

塞セル事

三各部隊道路開放ニ関シ無關心

ナルノミナラス一道路ニ數機界

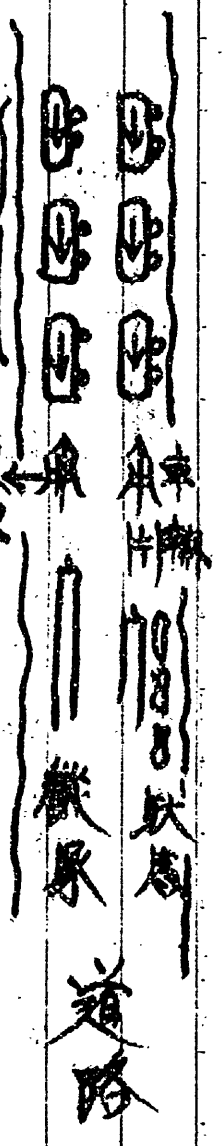
併進シ左圖ノ如キ狀況ヲ呈セ

ル事

左圖

從來馬匹ノ著キ減耗ト  
支那軍ノ特性上即チ陣地  
ニ據レル支那軍ハ出撃スル  
事方又近距離ニアリ人  
射撃セザル身ノ爲大行李  
ハ小行李ト共ニ殆ト合シ部隊  
長直接指揮ニ行動セシ多リ  
本營前テモ大行李ヲ  
一團トシテ本隊ノ後方ヨリ前  
進セシムル事ヲ部隊内

ニ在リテ行進セシメタリ  
從テ行進ヲ遲滞セシメ  
一原因トナレリ



自動車

四、前衛ニ架橋材料中取(鉄)ヲ

取爲セシ爲行進遲滞セシ

事

崑山

右邊擊取ハ道路ヲククリシノ陣守ノ  
 兵行進著レク遅滞レ倪集橋ニ  
 達レ宿營ス  
 師團ハ軍命令ニ基キ蘇州ニ向  
 ヒ敵ヲ追撃スヘク處置スル所アリ  
 然レニ第六師團ノ作戰主任師團  
 司令郝ニ(崑山)來リ敵ハトクカ  
 ヲ有スル陣地ニ據リ頑強ニ抵抗  
 レ攻撃ハ極メテ困難ナリト通報  
 ス  
 即チ師團ハ追撃ヲ中止シ渡河  
 攻撃ノ命令ヲ下達ス


1346

青春  
小南  
鹿山

十五日夜半迄ニ左翼隊ハ敵ヲ却  
ニ尾シ河南上南北ノ線ニ進出ス  
即チ攻撃ヲ命令ヲ取消シ左翼隊  
ヲ追撃隊トシ蘇州ニ向ヒ追撃セ  
シメ右翼隊ヲ鹿山ニ集結ス  
但右翼隊トノ連絡通信十分ナ  
ラス十七日漸ク鹿山附近ニ集  
結ス

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1348

青六日

崑山

第一旅ハ番面ノ敵ヲ撃破シ敵ヲ急

追ス

即チ師團ハ先ツ蘇州ニ向ヒ敵ヲ急

追スルニ決シ追撃ニ関スル命令ヲ

下達ス

--	--	--	--	--	--	--	--	--



青十九日新義鎮ニ於テ歩兵第十八旅團長

雨

蘇州

ハ都下ノ窮狀ヲ述フル所アリ

參謀長即ケ即座ニ困苦缺乏ハ全

師團同一ナリ軍ニ歩兵第十八旅

團ノミニ兆ス師團ハ全カヲ奪ケ

テ追撃中ニ兆スヤト詰問ス

歩兵第十八旅團長即ケ予々ノ言ハ

其意味ニ兆ス只旅團ノ實情ヲ

述ヘシノミト

夕刻蘇州ニ入リ始メテ歩兵第三十

五聯隊ハ夜襲後一帯ニ數隊ノ

敵トシテカ陣地ヲ突破シ本

朝午前六時三十分既ニ蘇州ヲ  
占領セル事ヲ知レ  
軍ト人連絡不能ナリ

1352

青森日  
用  
蘇州

師團ハ軍所命ノ目標ヲ占領セ  
ルヲ以テ有力ナル一都ヲ以テ奉賜  
ニ敵ヲ追撃セシメ主力ハ湖上機  
動ヲ準備スル所アリ  
參謀長ハ軍ノ意圖（軍ハ蘇州  
攻略後師團ヲ該地ニ集結ストノ  
内示アリ）ト師團ノ現狀ニ鑑ミ一  
部ヲ以テスル敵情搜索ハ實施ス  
ルモ追撃隊派遣ハ之ヲ行ハサル旨  
指示スル所アリレモ作戰主任並精  
銳主任參謀ハ有力ナル部隊ヲ  
以テスル追撃ノ必要ヲ認キ其ノ

同表ヲ得

青書

用

蘇州

飛行機來リ軍命令ヲ投下ス

(作命申第二〇六號)

師團ハ既ニ處置スミナリシヲ以

テ處置スル所ナシ

午前九時各隊副官ヲ集メ左記

事項ニ関シ注意スル所アリ

一、機銃ト掠奪ト混同スヘカヲ

ス機銃ハ必ス陣地中要務

令ノ規定ヲ遵守スヘシ

二、軍ノ威信ヲ損スレカ如キ非

人道的行為ノ能減

三、其他物資蒐集或敵標其也

戰場掃除・衛生事項  
此日湖上核動計畫（作命甲第  
八十）號）ヲ立案ス

1356

青

雲

蘇州

軍見部隊ノ連絡特杖來ル即ケ之ト  
 協議ノ結果依命申第入十四號ヲ下  
 達シ湖上機動ノ準備ト後方輸  
 送ヲ命スル所アリ  
 後方輸送ヲ命セシ理由左ノ如シ  
 師團ハ中新逐鎮ヨリ戰鬥後ノ  
 整理未完ノ儘追撃ヲ續行セリ  
 所レテ一方馬匹ノ損耗ハ各所ニ  
 戰鬥資材ヲ殘置シ之カ前送ハ  
 自動貨車セ。輸ヲ要シ師團  
 ノ戦力ハ著シク減耗シアリ。山死  
 軍葉モ一基數弱ヲ携行セルニ

過キス 兵站ハ金ク延 延伸セラ  
レス補給ハ自カヲ以テ上海ヨリ  
實施セサルハカラサルノ現況ナリ  
即チ爾後ノ作戰準備ノ第一ハ  
之等ノ前送ニ在リト云フモ過言  
ニ非ス  
湖上機動ノ實施ハ主トシテ偵察  
ノ關係上ニ十七日ト豫定セルヲ  
以テ力行セハ二十五、二十六日ハ主要  
戦闘資材ヲ輸送シ得ルノ狀況ナ  
リシヲ以テナリ



青帯

晴

蘇州

作戦主任参謀ハ秋山支隊ノ湖上機動  
 訓練觀察ニ趣キ該地ニ於テ里見  
 却隊長ト會ス  
 然レニ里見却隊長ハ昨朝命令ヲ  
 受領セルニ拘ラス行軍ノ意先兵  
 申モ行フ事ナク軍ニ湖上機動ノ  
 準備ニ支障ヲ來ス恐アリトノ理由  
 ヲ以テ獨斷的ニ輸送ニ関スル任務  
 ヲ實行シ米ス  
 作戦主任参謀ハ大ニ其米ヲ詰  
 リシモ時機既ニ遅ク如何トモ成  
 シ難シ即テ湖上機動終了後全

カヲ以テ輸送ニ任スヘキヲ約ス

1360

師團長ハ速ニ追撃ニ  
 移ラント<sup>主眼</sup>シタルモ  
 参謀長ハ準備整分  
 ルヲ理由トシテ時間ヲ  
 遷延シ漸ク午前十時  
 出發ス  
 (師團長)

青香

晴

望亭

秋山支隊ヨリ参謀アリ曰ク

湖上機動ノ油倉ノ油ハ軍ニ一往復

半ニ過キスト

油ノ補給ニ關シテハ再三軍ニ要求シ

アリレニ拘ラス明日ノ湖上機動ヲ

實施セントスル今日未タ補充シ

ズヌサルヲ知リ直ニ軍第一師川上

参謀ニ電話ス

川上参謀ハ在蘇州第一砲台場

司令部ヨリ受領スヘク答フル所

アリ

即チ在蘇州小西参謀ニ電話セ

ルモ狭泊場司令部ノ後置判明セ  
ス再ヒ川上参謀ニ明日迄送ス  
送スル如ク要求スル所アリ

青主背  
墨後取  
無錫

此日軍ヨリ僅少ノ油補給シ來ル  
小西參謀ハ蘇州ニ於テ極力油ヲ搜  
索セシ結果飛行場ニ於テ約千餘  
ノ噸ヲ発見スレテ豫定ノ如ク湖  
上機動ヲ實施スルヲ得タリ  
師團主力ハ夕刻無錫ニ到着ス參  
レニ逆撃隊ハ昨夕無錫ヲ占領セ  
レニ拘ラス本一日ヲ市内ノ掃蕩兼  
自整備頃ニ空費シアリ  
乃チ師團司令部ハ旅團司令部ノ  
前方無錫西端ニ進出宿營シ以テ  
無言ノ觀戰ヲナス所アリ

1364

青  
香

皆

無  
錫

追撃隊ハ黎明無錫出發追撃ヲ

開始ス

師團主力ハ本一日無錫ニ於テ集

後ノ追撃ヲ準備ス

其理由左ノ如シ

一 無錫以西ハ物資乏シク給養ニ

支障ヲ來スナルヘシ之カ爲無

錫ニ於テ糧秣ヲ蒐集シ之カ運

搬ノ方法ヲ講スルヲ必要トス

二 軍・秋山支隊並後方整理ノ爲

蘇州ニ残置セシ後方主任參

謀トノ連絡ノ要アリ

三、軍所命ノ常州ニ向フ逆撃ハ  
主力ヲ以テスル陳素ノ逆撃ヲ  
要セス

1366



參謀長八明三日出發ヲ主  
張セルモ師團長ハ準備  
出来次第出發ヲ命ジ  
侍從武官ノ聖旨傳達後  
正午出發セリ  
(師團長)

青

晴

ト大橋

夜軍ヨリ天王寺ニ向ヒ進軍ス(キ  
命令アリ

作戰主任ハ軍ノ真意ヲ實ス(ク川  
上參謀ヲ電話口ニ呼フ

第一師長代リテ出テ初メテ軍ハ南

京ニ向ヒ進軍スルヲ明示ス

此處ニ於テ師團ノ作戰指導並司

令部ニ於ケル空氣ハ著シク明明

トナリ全機能ヲ舉ゲテ南東攻

撃ニ邁進スルニ至レリ

軍ハ幾米何レノ線迄進出ス(キヤ

ニ関シ方針確立セス(一面怒ラタ

師團ノ上海戦ニ於テ被シレ打撃  
ニ對シスル親切心ヨリ機會ヲ捉ヘ  
師團ニ休養ト戦後ノ整理・戦力  
ノ回復ヲ要スル時間ノ餘裕ヲ與ヘ  
ントセリ  
即チ中新溼鎮ニ於テハ師團ノ三兵、  
青浦ニ向ノ追軍ヲノ意見具申ヲ  
認可セス第一隊長ハ參謀長ニ一週  
乃至十日位ハ現在地ヲ勤クコトナ  
カルレト述ヘ、追軍後モ蘇州ニ集  
結ヲ示シ蘇州占領後ハ師團ハ  
蘇州ニ集結シ一却ヲ以テ悉錫ヲ攻

略セシムル外ハ當分使用セサル見入  
ナル旨ヲ告ケ更ニ常州ニ向テ前進ノ  
場合ハ少クモ二週間ハ常州ニ滞在  
スヘキヲ明示セリ  
斯クノ如ク事前ニ消極的意圖  
ヲ示セル爲メ師團ノ作戰指導ニハ精  
銳刺タル氣勢ヲ殺キ司令部内ノ  
空氣又明朗ヲ缺キタルモノアリ  
特ニ後方勤務ニ支障ヲ來セル事甚  
大ニレテ其狀況左ノ如シ  
一師團ノ中新深鎮附近ニ集結スルヤ  
直ニ戰場掃除糧秣(三日分)集結積

補給資材ノ前送兵器ノ修理ニ着手  
セシカモ遠道撃ハ更更セル無資材  
ノ大敵、戦場掃除隊等ヲ設置シ  
攻撃スルノ已ムナキニ至リ之ヲ集結  
集積ニ約二週俾ハタシ其量自動  
貨車約七〇〇輛ニ達セリ  
二次ヲ師團カ蘇州ニ集結ヲ命セラルル  
ヤ將來ノ前途ヲ顧慮シ舟筏ノ  
蒐集ヲ開始シ又後方整理ヲ企  
圖シ十一月五日九師作命丁第  
六十三號ヲ下達セシカ明二十四日師  
團主力ノ常州附近ニ向テスル迄

撃命令ヲ受領シ後方整理ヲ中  
 止セシモ一部ノ隊ハ既ニ之ニ着手セリ  
 當時糧食兵器隊ハ補給點南翔附  
 近ニ在リシ爲主力ヲ崑山以東ニ配  
 置シ彈藥資材ノ前送ニ任シ師團  
 主力ノ給養ハ蘇州附近ニ散発物  
 資ニ依レル爲駄馬糧食ノ前送ハ  
 著シク後レタリ  
 三、又師團カ常州附近ニ集結ノ命  
 ヲ受クルヤ後方資材ノ前送ハ  
 隊ヲ常州ニ向テ實施セルモ再ヒ  
 金壇ニ向ヒ進撃スルハ命ヲ受  
 ケ後方部隊及資材ヲ之ニ別ラ  
 シムル如ク區處セリ

四、次々天王寺、南京ニ迫塞ス。ハキ軍  
ノ意圖ヲ知リ、始メテ後方整理ヲ  
短期間ニ實施スルコト能ハサル  
ヲ判断シ、南京道察ニ付、要要  
少ノ聲藥・糧秣ヲ輸送スル如ク積  
重ノ運用ヲ決定シ、各州縣ノ或  
置人馬、後方機關ヲ、南京ニ向  
テ前進スル如ク、區處シ得タリ  
蓋シ、當時、各州縣ノ或置人  
馬、資材等ハ上海・蘇州・常州・  
金壇間ニ置リ、節制ノ南京及  
略ハ三分ノ一ノ費カヲ以テ執行セ  
サルハ、カヲサルノ運命ニ至ルシリ

南京  
天王寺  
蘇州  
常州  
金壇

青六日

情

桑野鎮

清化鎮敵陣地ニ對シ重點ヲ本道  
北側ニ指向シ攻撃セル理由左ノ如シ

左方平地方面ハコクリーロ大ニシテ

攻撃困難ナルノミナラス第十年ノ

一初ハ午前八時胡奴堂(南方)ニ

達セルノ數アリ從テ混雜ヲ惹起

スルノ危険アリ

右方山地方面ハ山岳概シテ剣峻

ニシテ攻撃ニ時間ヲ要ス

本道北側方面ハ敵ノ陣地概シテ

堅固ナリト雖モ迅速ナル攻撃ト戰

力ノ突撃容易ナリ

The image shows a large rectangular area, possibly a page from a document, containing several vertical columns of text. The text is extremely faint and illegible. The page is framed by a double-line border.

1374



青島  
夕刻師團ハ齒面ノ敵ヲ撃破シ(奉  
南末城ヲ屠ルハク之ヲ悉追ス  
當特南京附近ノ狀況ハ全ク不明

ナリ  
之ヨリ先中軍ヨリ南京城頭壁ノ  
一番乘ハ直クニ大本營ニ電致シ  
大元帥陛下ニ奏上スヘキヲ以テ至  
急報告スヘシトノ要求アリ  
之カ爲各兵團各團隊ノ競争心程  
ヲ勸カセシ事言給ニ絶スルモノアリ  
此夜左進撃隊タル歩兵第本旅團  
副官ヨリ電話アリ曰ク  
歩兵第(右進撃隊本隊)ハ歩兵第三十六  
聯隊ノ直後ヲ前進シアリ。解隊長

八左邊擊取ノ地境ハ前邊セル  
 斯クノ如キ却取ハ又ヲ新營ツヘシ  
 ト極度ニ憤慨シアリ。追擊地境ヲ  
 嚴守スル如ク範圍ニ於テ注意セ  
 ン度  
 ト當時ニ於ケル兩邊擊取ノ追擊地  
 境ハ清化鎮西光約一五。米射鎮  
 典曲鎮高地一山下方村南側高地  
 一南京城東南端(中山門南)方約  
 二軒)ヲ連ヌル線トシ線上一ハ右邊  
 取ニ之ヲ含マシメ知リ  
 然レ夫右邊擊取方面ハ山岳更疊  
 頂モ岩石地多ク夜間ノ追擊ハ頗ル  
 困難ナルモナリ。從テ右邊擊取本

東ノ戦ハ自然本道方面ニ前進シ  
 来タリシモノナリ即チ情報主任  
 佐野主任参謀相次チ其不心得ヲ  
 説ク参謀長自ラ電話ニカカリ  
 更ニ之ヲ強辯シ飽ク迄固執セハ  
 第二線ニ集結スヘルト結フ  
 此ノ事件ハ更ニ歩兵第三十六聯隊  
 ノ突進ニ拍車ヲ懸ケ九日未明南  
 京城内ト壁ニ到達スルニ至ラレタリ


1378

陸軍

青九月

晴

宋方終

年第一線長ヨリ電始アリ曰ク

縦ヒ奪取セラルルモ可ナルヲ以テ

一名タリトモ城壁ヲ占領シ自軍

旗ヲ樹立セラレ度シト

第十六師團ノ進出遲滞シアル為

右翼隊ノ一部ヲシテ紫金山ヲ占

領セシム

紫金山ハ師團作戰地域外ナル

モ南京直接防禦線ノ最要點ヲ

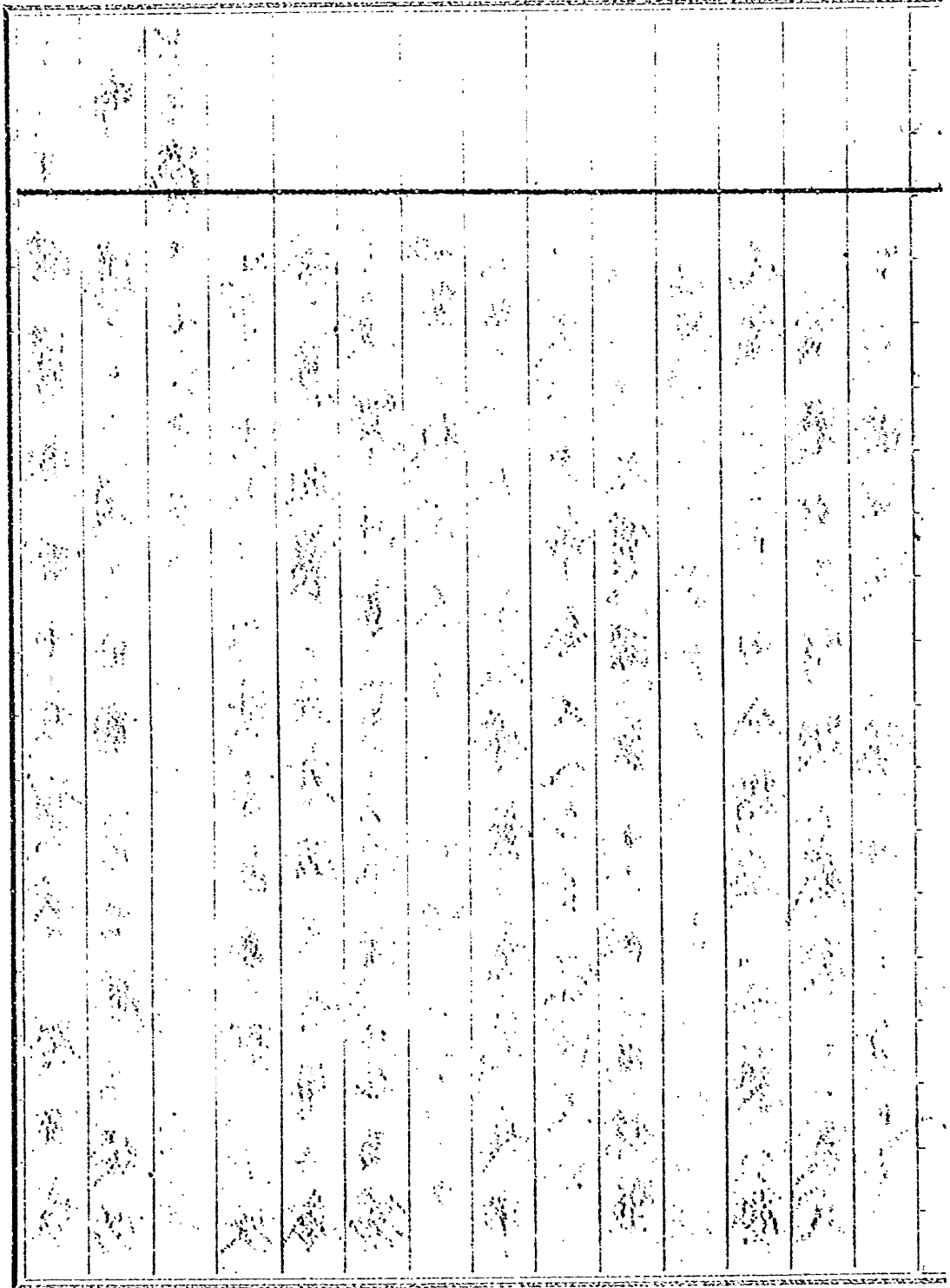
リ南京城ニ於テ真面目ノ抵抗ヲ

實施スル現況ニ於テ該高地ヲ奪

取スルニ非サレハ師團ノ攻撃ハ極

メテ困難ナリ況ヤ第十六師團

ノ進出遲レナル現況ニ於テ悉ク



1380

十月十日 麻翼隊就中左翼隊ハ終夜城

壁ノ占領ヲ企圖セルモ遂ニ成功

米方林 スルニ至ラス

此處ニ於テ作戰主任參謀ハ正攻

奇襲・強襲ノ三方法ノ併用ニ依

ル攻撃計畫案ヲ作成セルモ第

一線ノ狀況未タ十分明カナラサ

ルモノアリ、工兵隊長ノ意見具申

ヲ候ツテ命令スヘシト保留ス

然ルニ左翼隊長ヨリ夕刻城壁

占領ノ報告アリ

沈痛ナリレ司令部ノ空氣ハ忽

ク燃発レテ明朗ノ感激ニ一変ス

即チ直ニ軍ニ報告スル所アリ

軍司令官宮殿下ヨリ折返シ	祝電アリ	此夜大坪参謀ヨリ電話アリ曰ク	「第九師團ハ統ニ光軍門ヲ占	領セルヲ以テ中山門ヲ第十六	師團ニ讓ラレ度シト	第十六師團トノ作戦地境ハ二聖	橋土橋鎮邊山、南京市政府ハ	定メラレアリ、但南京市政府ハ軍	ノ誤リニシテ十一月八日大坪参謀	師團司令部ニ来リタル時國民政府	ト奇正セリ	從テ中山門ハ當然師團ノ作戦地	境ニシテ該地附近ヲ第十六師團ニ
--------------	------	----------------	---------------	---------------	-----------	----------------	---------------	-----------------	-----------------	-----------------	-------	----------------	-----------------



襲ルコトハ地形ノ關係上右翼隊  
ノ攻撃ヲシテ善シク困難ナラシムル  
ニ至ル

此處ニ於テ參謀長對第一師長ノ  
電由ニヨリ中山門ノ中央ヲ前部  
團ノ作戰地境ト定ムル事ニ協同  
成立シ一段落ヲ遂クルニ至レリ  
攻撃計畫案

方針

師團ハ正攻強襲奇襲ノ方法ヲ  
併用以テ城壁ノ占領ヲ企圖ス  
要領

一、坑道作業ニ依リ城內ニ侵入ス  
二、壕溝、壕溝、死守ニ依リ城門

城壁ヲ破壊ス  
二梯類ヲ利用シ奇襲的ニ城壁  
ヲ占領ス

部署

一 概ネ現在ノ部署ヲ以テ攻撃ス  
第一線隊長ハ特ニ城壁攀手登  
方法ヲ創意シ奇襲的ニ城壁  
ヲ占領ス  
二 工兵隊長ハ一都ヲ以テ右翼隊  
主力ヲ以テ左翼隊ノ攻撃ニ協力シ  
主トシテ抗道並ニ壕溝ニ任ス  
第一線隊員爲工兵ヲ區處ス  
但第一線隊長ハ要索ニ應ジ積極的ニ援助ス  
三 砲隊、爆撃隊ハ肉シテハ別ニ定ム

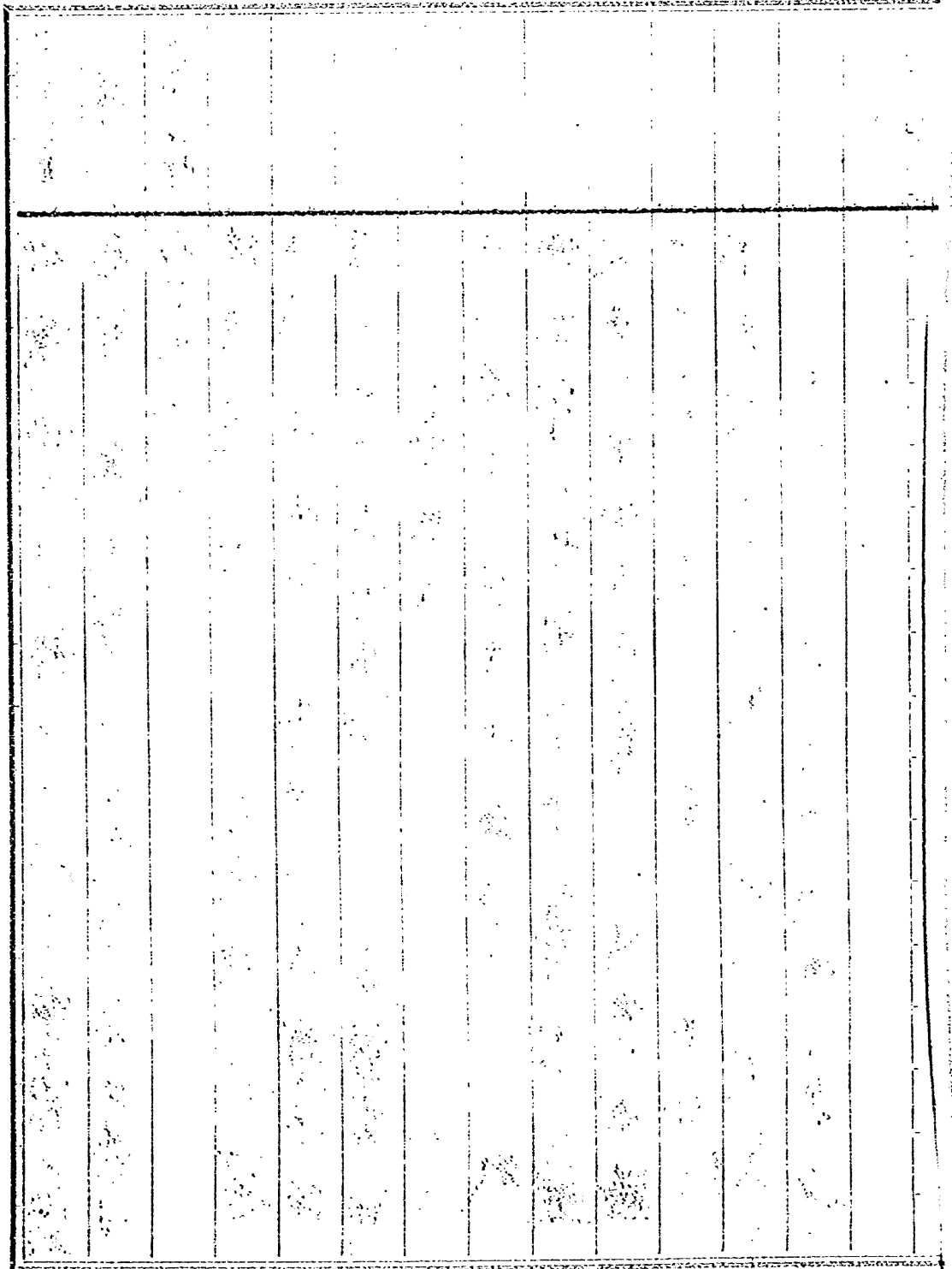
陸軍

青土日

晴

米才林

依戦主任参謀ヲシテ連絡並作戰  
 指導ノ爲左翼隊長ノ下ニ派遣ス  
 當時左翼隊長ハ光華門ノミシ、及  
 略ニ努力シアリ依戦主任ハ門ノ兩  
 側若干距離ヲ隔テ更ニ城壁ヲ破  
 壊スルト共ニ城壁下ニ枕邊ヲ掘  
 進シ正攻強襲兩方法ニ依リ戦斗  
 ヲ指導スル如ク要求ス  
 左翼隊長ハ城壁ト水壕間ニ餘  
 地ナキモ更ニ偵察研究スヘク答  
 フル所アリ



1386